◀展示された農家自慢の山うどを見る参加者

白神トピックス

白神山うどの出来栄えを競い合う

山うど部会

収穫最盛期を迎えた山うどの出来を競う、第20回山うど共進会が２月19日にプラザ都で開催され、高橋稔さん（二ツ井町・羽立新田）が最優秀賞の全農秋田県本部長賞に選ばれました。

共進会には２Ｌが22点、３Ｌが19点の計41点が出展され、会場には農家自慢の山うどがずらりと並びました。審査基準は「肌の色」、「石附やハカマがしっかりついているか」、「生長点の長さが揃っているか」などで、市場関係者が厳しく審査をし、消費者に選ばれる商品であるかどうかを重視しています。

今年度の山うどの生育について担当者は「秋頃の降雨等によって、掘り取り作業の遅れや伏せ込み作業の遅れが見られた。また、伏せ込み後も低温だったため、生育を心配したが良質なものを収穫できている。今後は、日照時間が増えてくるので、ハウス内の温度管理を徹底し品質維持に努め、高品質な山うどの出荷を期待している」と話してくれました。

○優秀賞：茂内　義輝さん（二ツ井町・鎌　谷）
　　池端　伸吾さん（二ツ井町・飛　根）
○奨励賞：畑山　悦雄さん（二ツ井町・外　面）
　　藤田　清樹さん（二ツ井町・　種　）
　　安保　伸広さん（藤 里 町・清水岱）

新たな特産品として生産拡大を図る

園芸部会

園芸部会（畑山悦雄部会長）による、スナップエンドウ栽培講習会が２月23日に生活総合センターで開催されました。生産者やＪＡ、種苗会社など約30人が参加し、品種の特性や病害虫対策などについて説明を受けました。

種苗会社の担当者からは「発芽の適温は18～20℃で最低でも地温13℃は確保してもらいたい。また、着莢開始節位は８節をめやすとし、整枝や摘花を行う」といった指導がされました。スナップエンドウは高い収益が見込めるほか、必要な資材も簡易で軽量野菜のため、女性や高齢な方でも取り組みやすい品目として、ＪＡでも作付けを推奨しています。

▲栽培のポイントを学ぶ生産者

▲「生産の目安」などが説明された班長会議

目安に沿った作付けを求める

ＪＡあきた白神

平成30年度の農業政策を各地区の協同班長へ周知するため、２月23日に能代市文化会館と二ツ井町庁舎で農業協同班長会議が開催されました。

このうち能代地区の会議には、約70人の協同班長が出席し、東北農政局や市の担当者から生産の目安などについて説明を受けました。能代市の30年産米の生産の目安は、２万861ｔ、水稲作付率56.5426%、転作率43.4574%となりました。今後配布される生産者ごとの目安は、個々の水田台帳面積に作付け率を掛け合わせたものを基本とし、ＪＡに出荷する農家はＪＡの販売計画などを反映させた数字も示されます。